

総合的な学習の時間「国際協力とジェンダー」： 「イスラム世界と私たち」

地歴科(地理) 菊池 三千世
国語科 荻原 万紀子

1. 授業の目的と概要

今日、世界各地には貧困や紛争に苦しむ人々が少なくない。そうした地域では女性の地位が低く、一段と厳しい生活を強いられていることが多い。一方、女性の立場に配慮した援助や開発による、新たな問題解決方法も模索されている。本講座は、①世界各地の女性・男性の在りようや問題点を調べ、背景を探り、解決・解消にむけて私たちにどのような協力ができるか、幅広い角度からみんなで考えること、②グローバルな問題を考えるとともに、自己の在り方、生き方、進路も合わせて考えること、の2点を目的としている。

また本講座は、お茶の水女子大学「子ども発達教育研究センター」のプロジェクトとして、大学教員をまじえた高大連携研究の一端としても位置づけられており、大学教員等の専門的な講義から触発された生徒が、自分の課題を設定して取り組んでいくことを目指している。

2. 対象

2年生 選択者 13名

3. 授業の流れ

1時間目にお茶の水女子大学の三浦徹教授による講義「イスラム世界と私たち——日本のイスラム認識と中東の人々の現実——」を受けた。

内容は、主に以下の3点である。

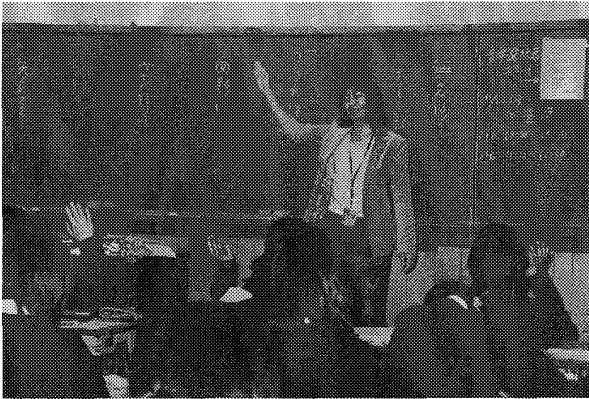
- ・イラク戦争とアメリカのいう「自由」や「平和」の意味について問題提起
(ブッシュ大統領再選、イラク非常事態宣言を受けて)
- ・「日本の中東・イスラム認識」の偏りについて (高校生のアンケート調査結果から)
- ・中東の人々の現実、中東の人々から見た世界について
(バックグランドのイラク女性の日記『バックグランド・バーニング』から)

2時間目には補足説明を受けた後、質疑応答を行った。生徒が自分たち自身の先入観や偏見について認識し、意見交換をすることによってグローバル化時代の国際理解の在り方を考える手がかりを得た。最後に授業を通して考えたことを受講者数名が発表した。

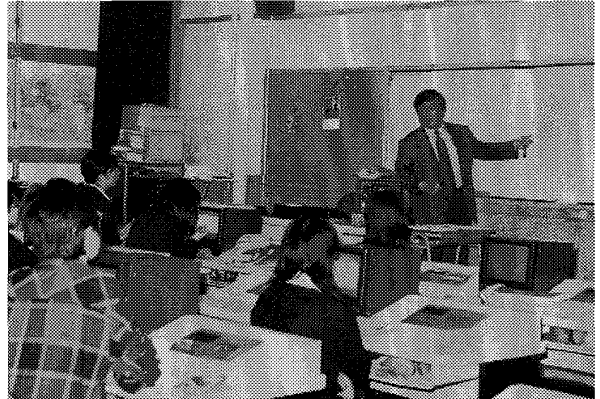
4. 研究協議・反省

研究協議では授業者から本時の授業についての趣旨説明と反省を述べた後、参加者から質問やご意見をいただき、各校における「総合的な学習の時間」の現状と課題について情報交換も行った。「国際協力とジェンダー」という講座であるが、「国際協力」についての理解は十分できているか、大学教員の高度な講義内容を生徒は理解できているかなどの疑問が提示されたほか、外部との連携による授業の課題等について意見・情報交換を行った。

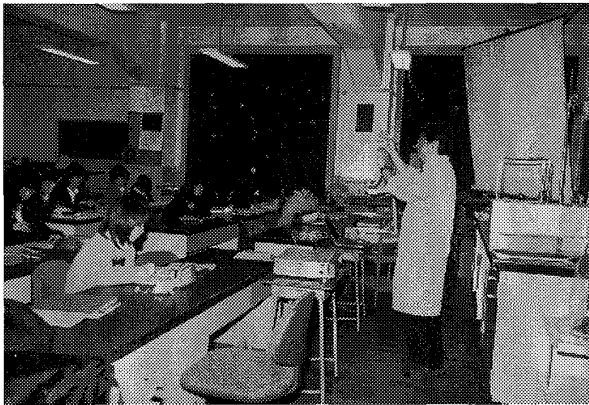
公開教育研究会スナップ



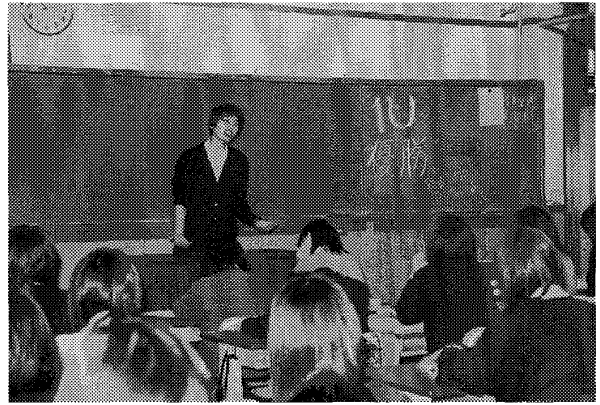
古 文



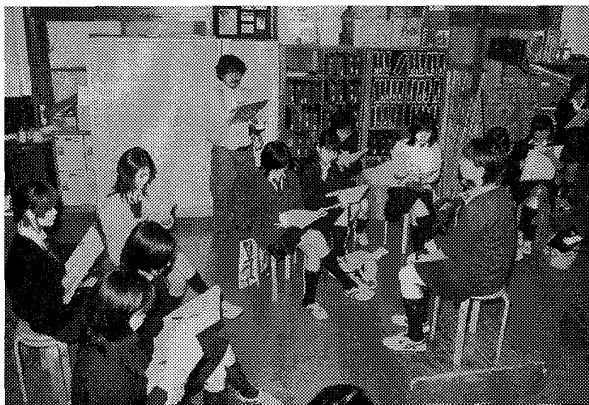
リーディング



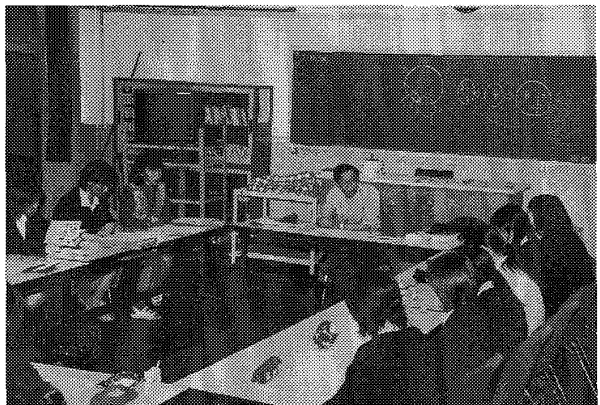
物 理 I



現代社会



美 術 II



国際協力とジェンダー